



静岡でバスケット日韓王者決定戦



選手とともにコートに入場する児童

—静岡市駿河区のグランシップ

GW三島 130人を招待

「一流選手の試合を間近で観戦し、心を元気にしてほしい」と、被災地支援に取り組む三島市のNPO法人グラウンドワーク三島が企画。県内で避難生活を送っている児童6人も観戦に訪れた。エスコートキッズを務めた代表児童20人は、浜松と全州の選手と手をつないで堂々と入場し、試合開始前の記念写真に納まった。

福島県いわき市から裾野市に避難している新妻真理奈さん(9)は浜松の選手と入場。「背も手も大きくなってびっくりした。浜松に勝ってほしい」と、興奮気味に振り返り、試合

被災児童選手を誘導

日本プロバスケットボールbjリーグは29日、静岡市駿河区のグランシップで行われた日韓王者決定戦「2011bj-KBLチャンピオンシップゲームズ」第1戦に、東日本大震災の被災児童ら約130人を招待した。一部の児童は「エスコートキッズ」役を務め、試合に臨む選手をコートに誘導した。

—関連記事14面へ

合中も大声で声援を送った。